

<今回>230回目 2018年3月23(金)15時~18時 601号室

読書は9冊目「邪馬壹国の証明」 p87(7)原書と版本と類書は混同できるか。から

<前回>229回目(18-3-9) 出席者8名

資料(18-02-26-1)前回のまとめ(清水)

-2)邪馬壹国と邪馬臺国(清水)

A 報告

今回は16時から横浜線が事故という。新しく白石紀彦さんが来られた。声をかけてよかった。少し待っている間に、私の台湾旅行の次第を話していた。台日文化交流連合音楽祭と大袈裟な表現だが、高雄、台南と簡素な合唱交流会をしてきた。資料2の討論が沸騰して時間を経過してしまったので、読書の頁は進まなかった。

懇親会7名 津多屋14245円+1771円(7・2000) -2016円

B 資料 -1)碾愷は碾磑、いずれも石偏である。石でできているから石編なのか。金属器の臼はない。

-2)2年前に静嘉堂に北宋本の邪馬一國を確かめに行った時の状況を記したが、重大な誤認があった。静嘉堂の学芸員が明、清の版刻の書を出してくれたが、それには共に邪馬壹国で邪馬一國となかったのがっかりして北宋本を要求したらもう傷んでフィルムで確認することになった。という次第に訂正します。邪馬臺国では誤認です。邪馬壹国とあり、三國志はどの時代も残っている版本は邪馬壹国であることを確認した。

C 読書「邪馬壹国の証明」のp85(6)版本への無関心はなにをもたらしただか。

1)戦前から戦後にかけて大きな思想的変節を示した親鸞学者たちに対して信用できなかったから自分の手で鎌倉時代を生きた親鸞の実像を確かめるため、「歎異抄」の各写本群を渉猟した。影響を受けた1冊の本。「歎異抄」の語学的解釈(京都あそか書林刊昭和38年)著者姫野誠二氏(同志社大学英文学教授、英国で出版)は詳細な文学上の校異本を範として「歎異抄」の厳密な校本を作成した。

2)最古の写本たる「歎異抄」が底本とされた。「底本の改行」「底本の行間補脱文字」も復元されていた。他の古写本(端の坊本(永正本)以下5本の名を列挙)これに強烈な学問上の刺激を受け、それを基盤に、用紙、しみ、筆跡などの諸問題に肉薄した。

3)結果、末尾の「流罪記録」後半に重大な筆跡上の差異(蓮如による)の存在を発見した。「大切な証文」問題(古田「親鸞思想—その史料批判」富山書房刊、参照)に解明の端緒を開いた。(古田先生の親鸞研究者の地位確立)一個の資料中の一個のキーポイントを解き明かすには、その史料の各種古写本群の精緻な対照と検討が不可欠であると教訓を得た。これを三國志研究に適応した。

4)邪馬壹国という中心国名の表記をめぐる「三國志」の版本、写本の検討があまりにも欠如していた。古代史学者を歴訪した経緯は第1書「『邪馬台国』はなかった」の冒頭部に記した。古代史研究に立ち入らぬ事さえ助言された。(親鸞研究者として評価されていたから)

5)三國志の各種版本を渉猟すればすべて邪馬壹国であることに直面するから。(ヤマト古代天皇制で、まとまっていた古代史を揺るがすことを恐れていたから)南宋本、元本、明本、清本、中華民国本、北京本、北宋本には邪馬一國と刻するものが少なくなかった。

次回日程 18-4-2(月) 15時から18時 603号室

4-27(金)15時から17時 602号室(引き続き)

17時から18時 603号室